

教育と研究を両輪とする高等教育の在り方に関する検討について

今後の大学分科会における論点例（検討案）

（学士課程教育の在り方）

- 知識集約型社会において世界をリードする国として成長するため、「知・情報」の中核を担う存在として大学の役割に一層の期待がかかる中、あらゆる分野の人材育成を担う高等教育機関として、特に学士課程教育の充実について、どのように考えるか。
- ・ 学士課程教育が教員個人の研究ベースに依存しすぎているのではないか。
 - ・ イノベーションを生み出す力を備えるためには、学士課程での幅広い学びが必要ではないか。 等
- 我が国の大学は、伝統的に入学段階で文系と理系に分けられているが、大学教育において真に文理融合を推し進めるためには、入試段階で文系と理系に分けないことによるのみ解決する問題ではないのではないか。大学教育において、文理融合を実現するための方策について、どのように考えるか。
- ・ 学生の専門とは異なる分野への興味・関心を引き起こす教育体制となっているか。
 - ・ 学士課程教育において文理いずれの授業科目もバランスよく学ぶことが必要ではないか。 等

（大学教員の在り方）

- 教育と研究を担う大学教員の質とは何か、大学教員の質保証や評価の在り方について、どのように考えるか。また、「研究力」の向上を図りつつ、大学教員の「教育力」を高めるための具体的な方策について、どのように考えるのか。
- ・ 大学教員は研究者であると同時に教育者であることを再認識することが重要ではないか。
 - ・ プレFDを含めて大学院博士課程における教育プロセスが重要ではないか。 等
- 高等教育のユニバーサル段階において、大学教員が「学生を教授、その研究を指導、又は研究に従事」し、教育と研究のいずれの時間も充実させるための具体的な方策について、どのように考えるか。
- ・ 大学教員の管理業務の負担を減らすため、職員等の質的向上を図るとともに、権限委譲や分業化が必要ではないか。
 - ・ 研究時間確保のためカリキュラムや担当授業コマ数の見直しが重要ではないか。 等
- Society 5.0 を実現する人材の育成や研究成果の創出を行うために、大学教員の多様性をどのように考えるか。多様な視点からの教育研究という観点から、様々な人材を教員として登用するための具体的な方策について、どのように考えるか。

(大学院教育の在り方)

- 「2040 年を見据えた大学院教育のあるべき姿」(審議まとめ) 及びこれまでの大学院教育改革に係る施策の進捗・検証等を踏まえつつ、大学院教育の体質改善に向けての議論を進める。

⇒大学院部会で中心的に審議(第4次大学院教育振興施策要綱の策定)

(審議内容)

- ・大学院における各課程で共通に育成すべき能力の明確化
- ・大学院改革に係るこれまでの施策の成果等を有効活用するための方策
- ・学位授与の在り方 ・経済的支援の在り方 ・博士課程修了者の処遇の改善
- ・リカレント教育の充実方策 ・人文・社会科学系大学院の在り方
- ・大学院全体の課程の在り方 等